

自分のおしりに火をつける！ 神崎郡3町への申し入れ&学習会

投稿



兵庫県神崎郡市川町 後藤由美子

神崎郡は姫路の北部、福崎、市川、神河と北へ行くほど山間になって、生野銀山のある生野峠から南、播州平野を形作る河川の一つである市川流域に広がる地域で、面積は広いが人口は合わせて4万数千人ほどです。7月の市川町への申し入れで市川町長が、郡部3町の町長会議でこの問題を共有すると言われたので、後の2町へも申し入れを行いました。

10月21、22日と2日にわたって寺院を会場に、避難計画の学習会と宿泊交流会をかねての



合宿参加者は総勢二十数名で、各町10名ずつの申し入れとなりました。初日、市川町へは2度目の申し入れで、前回できなかった福島から市川へ避難移住した方のお話を聞くことと、新たな情報提供、スクリーニング地点に関する追加質問等10時半より12時まで話し合いました。対応は副町長、総務課長、防災担当者として、避難受け入れ計画に

ついてより具体的な問題提起ができました。しかし文書回答にあったヨウ素剤の備蓄などについてはまだ何も具体化されず、危機意識があると言われた放射能測定に対しても動きはないことが明らかとなりました。参加者から、国はスピーディーを使わずモニタリングポストを使うという方針だが、それがこの周辺にありますか？と尋ねられると、ないですね、と言葉少なで、私たちはまったく原発事故による放射能汚染からは無防備なのだと言われられました。汚染を受けるとシミュレーションだけされて、それから身を守るすべも与えられないのは本当におかしい。一体私たちはどうすればいいのかを継続して自治体に問うていくことは住民として当然の道筋であるし、原発事故のリアルを伝える有効な手段であると感じます。この危機意識を私自身が持ち続け、地方自治体の責任を明確にする働きかけを続けることを通じて、自ら原発再稼働が考えられない非常識であるという認識を広めていければと思います。

申し入れに参加いただいたお一人おひとりが、様々な角度からその人にしかできないことを発言され素晴らしいチームプレーでした。特に、見えない放射能の危険を見据え、自主避難という決断をされた方の存在は私たちの意識を確実に変えてくれます。大変な苦しみを経て、ともに声をあげていけることに感謝しました。このようなことの積み重ねが、この国の難しい問題に取り組む大きな力になると感じます。継続した働き掛けを、具体的にはどうすればいいか新たな課題で試行錯誤ですが、また皆さんと共有し模索していきたいと思えます。

そして今回、神河町では大事なことがわかりました。その経緯を神河申し入れの主体となった滝上さんに報告していただきます。

●神河町へ申し入れ



神河町は発電所を3つ伴う大田ダムと長谷ダムがあり「電気の町」と言われています。9月に隣町で既に申し入れを済ませた後藤さんから、神河町の申し入れの話を聞き、町民として引き受けましたが、私はこの町に来て1年しかたっていない、右も左も分



からない状態でした。

申し入れまでには、一緒に申し入れに行ってくれそうな人、数人に会って説明、また、申し入れ

小浜市民（口名田西相生地区）211名の避難所
「旧上小田小学校」は土砂災害警戒区域内



兵庫県神崎郡神河町ハザードマップより
茶色は土砂災害警戒区域

前日には美浜の会等の（小山さん、島田さん、馬場さん）と脱原発播磨アクションの菅野さんらを交えた勉強などし、引っ越しをする2年前の北九州瓦礫焼却反対運動や地元の松下竜一さんの事、被ばくで亡くなったと思われる祖父の事などふつつつと思い出され、大変刺激されました。

申し入れには地元の議員さんが仲介を快く引き受けてくれ、スムーズに行われました。関西電力の恩恵を受けていますが、町には無理な避難計画や一般には報道されていない放射能の人体への影響をきちんと把握して貰いたいと思いました。

また、申し入れの前に地区の集まりで「洪水ハザードマップ」の説明が行われ、地区にある避難所は危険区域に入っている事、他の業者が使用を始める事などを知り、申し入れの際に何うと、避難場所として他に最適な所がないとの事で、危険区域だと小浜市にも伝えてあるとのこと。他に適当な場所が決まらなければ、受け入れは困難であると言っていました。

後々、この危険地域である事が重大な事だと！！（ここは県が指定した「警戒・危険区域及び、浸水地域」）

他にも、美浜の会の説明を受けて、ヨウ素剤、スクリーニング機材の購入の検討、住民の避難（国、県の指示を待ち必要があれば、ですが）、原発近隣でのスクリーニングの件で、理解を深めてもらったのも大きな成果でした。

申し入れに行って、私自身大変勉強になり、また、原発が再稼働せず、いい方向に向って欲しいと思いました。（神崎郡神河町 滝上陽子）

福崎町でも最初の対応は固かったのですが、最後には態度が変わり、いろいろ参考になったとの言葉を聞きました。当日文書回答を用意されていましたが、その後それに関する質問があるから話がしたいと電話すると、個別対応はしかねるとのことでした。放射能汚染からどのように防御するかが明らかでない分かったのだからそれに対してどうすればいいか、どのように対策されるのか住民として聞くことに応えてもらえないのかと聞くと、とにかく3町で協議の上、返事すると言われました。何か文書を出そうかと思いますが、どのようにすれば効果的なのか、他の地域ではどうされているのか知りたいです。



しかし神河町申し入れでは町会議員の協力があり、当日も参加され理解を深めてもらえました。もし機会があれば議員の方々に、福島から避難された方の話を聞いていただけないかとお願ひしたところ、11月27日にその場を設けていただけることになりました。

原子力災害の被害の現実や危険の大きさなどが、目の前で話される人の切実な経験として、多くの人の心に届けられ、共に歩む人が地域に増えていけばうれしいです。